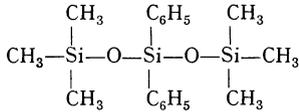


グリース、或いは焼付けした G. E. Dri-film の被膜は蒸気圧が極めて小さいので、これらを塗った綿玉や、焼付け処理したガラス棒を低温箱中にさらしても、雪の結晶形には何の影響も与えない。しかしながら、これらで処理した糸あるいはガラス繊維の上には、やはりサヤ状または奇妙な樹状結晶の伸びるのがみられた(写真7, 8)。G. E. Dri-film を焼付け処理したガラス面に生ずる霜の結晶が、所謂ピラミッド面 (10 $\bar{1}1$ ) をもつことについてはすでに別に報告した。(1957: 小林・樋口)

以上述べてきたいろいろな蒸気の外に、特に面白い影響を与えるのが、メチルフェニール系のシリコーンオイルである。これは前に示した鎖状構造の中の CH<sub>3</sub> 基の一部を C<sub>6</sub>H<sub>5</sub> 基で置換したもので、実験に使った東芝メチルフェニール系シリコーンオイル、6 c. s. (試供品) の構造式は次のようなものである。

メチルフェニール系オイル、6 c. s.:



蒸気圧: 173°C, 18mmHg

予め広幅六花の結晶を作っておき、このオイルをしませた綿玉を近づけ、その蒸気をかがせると、副軸に沿って伸びていた各枝の成長方向が狂ったり、不規則に枝分れしたりして、まるで「酔っぱらった」ように振舞う

(写真9, 10)。その構造は正常の樹枝(羊歯状或いは扇形樹枝)の構造と全く異り、「木の葉」状の奇妙な形を呈する。写真1はこのような結晶の枝の一部を示すものである。

以上写真によって示したように、ある種の不純物は、雪の結晶の主軸方向への成長を促進したり、あるいは副軸方向への成長を狂わしたりすることがわかったが、これがどのような機構によっておこるかについては今の所わかっていない。非常に奇妙な形の結晶が得られたので、それらを写真によって紹介し、このような結晶成長についての御批判や御教示を頂くことが出来れば幸である。この実験に際して、東京芝浦電気、鶴見研究所シリコーン課より、種々の実験用試料並びにそれに関する資料を頂いたことについて厚く感謝の意を表します。

#### 文 献

- Isono, K., M. Komabayashi, and A. Ono, 1957: J. Met. Soc. Japan, **35**, 337.  
 Kobayashi, T., 1957: J. Met. Soc. Japan, 75th Anniversary Volume, 38.  
 Kobayashi, T. and K. Higuchi, 1957: Contrib. Inst. Low Temp. sci., No. 6, 7.  
 Nakaya, U., M. Hanajima and J. Muguruma, 1958: J. Fac. Sci. Hokkaido Univ. Japan, Ser. II, **5**, 88.  
 Schaefer, V. J., 1949: Chem. Rev., **44**, 291.  
 Vonnegut, B., 1948: Science, **107**, 621.

### 日本気象学会第10期関東地区地方理事再選挙の結果

本日開票の結果、投票総数、各会員の得票数は下記の通りです。

投票総数	171票
当選 藤田兼吉	143票
当選 堀内剛二	126票
次点 なし	

以上は、定款細則第6条により、役員に就任する資格を持った会員名および得票数のみです。

昭和33年9月16日

日本気象学会選挙管理委員会